

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第八小学校

4年	【目指す授業】	自分の考えを言語化できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○漢字の習得が十分でない。 ○物語文・説明的文章への読解力が十分でない。 ○読書量が少ない。		○書き順の空書きや、熟語の音読に取り組みさせる。 ○場面と場面を比べて読んだり、感想を伝え合ったりする授業を展開する。 ○読書句間や図書の時間を有効に活用する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		91.6%	92%	86.3%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		75.9%	80%	66.7%
	【評価】	成果と課題			
	○漢字練習は熱心に取り組めたが、日常での活用が結びつかないことが課題。 ○話し合い活動を取り入れることで、多角的に思考する態度が身に付いた。				

5年	【目指す授業】	自分の考えを一人一人がもち、友達と交流し合える授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○漢字の習得が十分でない。 ○物語文への興味関心は強いが、説明的文章への読解力が十分でない。 ○読書量が少ない。		○漢字ドリルの音読を取り入れ、まず漢字を読み慣れるようにする。 ○叙述を根拠に検討し合う授業を展開する。 ○図書の時間を有効に活用する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		86%	90%	89.3%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		55.3%	60%	58.3%
	【評価】	成果と課題			
	○児童同士の交流の機会を多く取り入れることで、国語への得意意識が向上した。 ○漢字の習得が十分でないため、反復して練習させていく必要がある。				

6年	【目指す授業】	自分の考えを論理的に説明し、他者との交流から考えを深化できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○読解力が低く、自分の考えをもち、表現することに課題がある。 ○他者の考えと比較して、自身に生かすことに課題がある。		○叙述をもとに、情報と情報を関連付けて読み取れるようにする。辞書や読書活動を活用して語彙を増やすなどして、表現方法を身につけさせる。 ○他者との比較をする授業展開をする。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	国語の授業の内容はよく分かる。		26.2%	35%	26.6%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		63%	80%	59.6%
	【評価】	成果と課題			
	○情報を適切に選択・整理し、他者と比較しながら考えを深めることができた。 ○叙述をもとに内容を読み取り、自身に生かすことに課題が残った。				

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第八小学校

4年	【目指す授業】	児童のつながりを大切にし、分かったことを伝える授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○基礎的な計算技能が定着していない。 ○一単位時間の学習内容の定着が十分でない。		○習熟タイムや放課後の補習教室を活用して、既習事項の定着を図る。 ○授業の最後に適用問題を取り入れ、一単位時間の学習内容の定着を図る。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		84.2%	90%	83.3%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		69.4%	70%	58.8%
	【評価】	成果と課題			
	○既習事項の習得については、成果に差が生まれた。 ○一単位時間内での定着は図れたが、その後の授業での活用に結び付かない。				

5年	【目指す授業】	児童同士のつながりを大切にし、「できた」と実感できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○基礎的な計算技能が定着していない。 ○一単位時間の学習内容の定着が十分でない。		○習熟タイムを利用して、既習事項の定着をはかる。 ○授業の最後に適用問題を取り入れ、一単位時間の学習内容の定着を図る。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		81.6%	85%	82.5%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		63.2%	65%	55.4%
	【評価】	成果と課題			
	○数と計算の領域の習得不足により割合、単分量当たりの単元に影響している。 ○既習事項の習得が十分でないため、以前の学年の内容の習熟が必要である。				

6年	【目指す授業】	既習を結び付け、分かったことを使い、自らの思考を広げられる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○既習の内容が生かされていない。 ○計算ミスが多い。 ○問題→式や問題→図などのつながりの理解が低い。		○既習を想起させながらの授業を行う。 ○習熟タイム（東京ベーシックドリル）を活用して繰り返し練習させる。 ○問題場面が式や図と関連付けられているかを確認する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数の授業の内容はよく分かる。		35.9%	50%	28.3%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		55.4%	70%	51.5%
	【評価】	成果と課題			
	○既習事項を使って課題解決に臨もうとする児童が増えた。 ○既習事項の定着ができておらず、活用には至らなかった。				